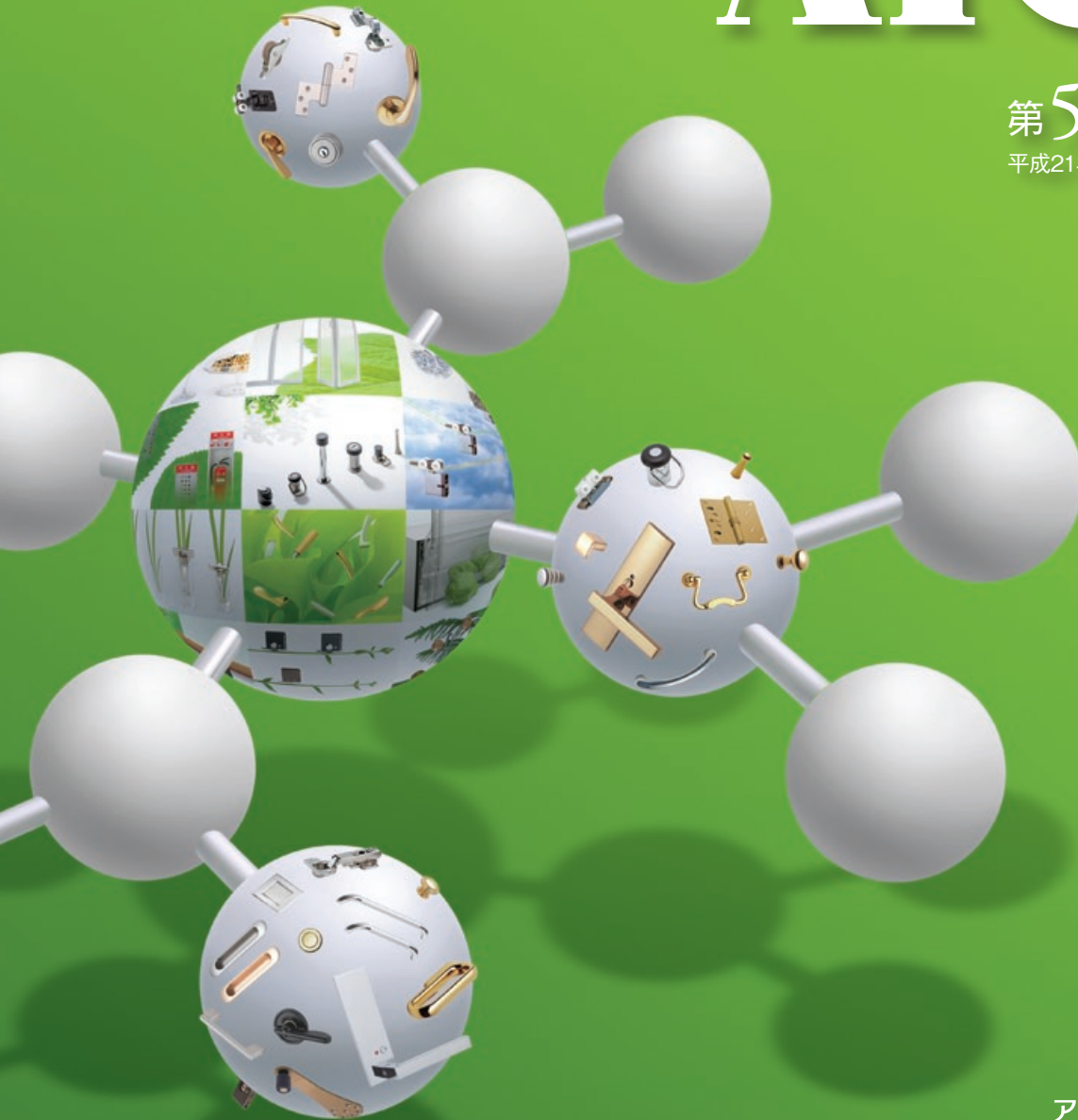


# IR NEWS **ATOM**

第56期 報告書

平成21年7月1日～平成22年6月30日



住まいの飾り職人

**ATOM**

アトムリビンテック株式会社



「住まいの飾り職人」がつくり出す  
独創的な商品で、  
社会の発展に貢献します



「独り歩きのできる商品づくり」



「創意・誠実・進取」

#### 社名の由来

創業者は江戸指物(鏡台、茶箆筒、長火鉢等)の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する銚職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、正しく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。



株主の皆様へ

## 第56期の業績について ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第56期の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当期におきまして当社の関連する住宅市場は、一部の戸建て住宅やマンション関連の中小物件においてわずかながら改善の兆しが見られたものの、未だ先行きの不透明感を払拭するところまでにはいたらず、新設住宅着工戸数は依然として低水準のうちに推移いたしました。

こうした市場環境の中で、当社は市場価格の適正化に努めるとともに、販売費および一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じつつ、積極的な商品展開と販路の拡大に向けた取り組みを推進してまいりました。また、当期を初年度とする第7次中期経営計画に基づき、経営組織の改革による次代に向けた基盤構築を掲げ、厳しい経営環境に即応可能な営業体制の強化を図り、戦略課題の実現に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの結果、当期の売上高は63億46百万円（前期比9.5%減）、営業損失は1億26百万円、経常損失は66百万円となり、また、当期純損失につきましては29百万円となりました。

今後につきましては、早期の黒字転換を果たすべく、より一層、組織の活性化を図るとともに、柔軟かつ機動的に経営体制の見直しを進め、業績の向上に全社一丸となって取り組んでまいります。

平成22年9月



代表取締役社長 高橋良一



# 厳しい経営環境の中でも発展可能な事業体制の構築に努めてまいります。

## Q 第56期の取り組みについてお聞かせください。

**A** 販売部門の組織改編を通じて営業力の強化を目指すとともに、市場拡大に向けた取り組みを着実に推進しました。

第56期におきましては住宅エコポイントなどの支援策も打ち出されましたが、住宅市場回復の足取りはかなり緩やかなものであることは間違いありません。こうした状況の中で、当社の製品をどういった形で浸透させていくのかが大きな課題となってきています。

こうした視点から、経営組織の改編による次世代に向けた足場固めを目指す第7次中期経営計画に基づき、まずは販売部門を中心とした組織改編を行い、厳しい事業環境を打破する営業体制の強化を進めてきました。

商品戦略については、激化する価格競争に打ち勝つため、海外生産品の調達拡大に努める一方、品質や安定供給の面で根強い安心感に支えられております国内生産品については発注管理ならびに購買管理体制を強化し、他社製品と質的な意味での差別化を図ってきました。

こうした取り組みと並行して、商品構成の見直し、集約化に着手いたしました。これまで当社は、市場やお客様のご要望に応じて、枝葉を伸ばすようにさまざまなバージョンの製品を開発してきましたが、その一方で、種類がありすぎてどの商品を選んだらよいかかわからないといったご意見も頂戴してきました。当社では、こうしたお客様の声にお応えするため、用途や機能、施工の面から商品構成を見直し、枝葉の部分をそぎ落としたわかりやすい形でお客様に提案する取り組みを開始いたしました。

また、当社は、人にも環境にもやさしい商品をとということ、ユニバーサルデザインの設計思想を反映した商品の拡大

やLOHAS思想の導入など、未来を先取りする商品開発を積極的に取り組んできました。これまでこうした商品は個人の一般住宅向けに開発されてきましたが、これからは福祉施設や高齢者介護施設、子供向け公共施設にもターゲットを拡大し、こうした需要に特化した新たな商品群の開発に着手いたしました。

市場戦略では、アトムCSタワーを活用した「秋の内覧会」および「春の新作発表会」が定着し、金物だけではなく広くインテリアに関わる新商品発表の場としてお客様から高い評価をいただくことができました。アトムCSタワーとの関連でいいますと、東海大学との産学協同による商品開発プロジェクト発表会の開催、当社をはじめ各団体や企業とのコラボレーションによる各種セミナーやイベントの恒常的な開催など、新分野・異分野の開拓を積極的に図ってきました。

情報システム戦略については、SNSとして「インテリアファン」を立ち上げたほか、「オンラインショップ」における商品アイテムの拡充強化、お客様の利便性向上を目指した大手ポータルサイトへの出店など、WEBシステムの充実に力を注いできました。

## Q 第56期の業績に対する評価をお聞かせください。

**A** 厳しい経営環境の中で売上高総利益率を拡大できたことは、来期につながる基盤づくりに貢献できたことと評価しています。

第56期の業績を振り返ってみますと、市場価格が下落する中、売上高総利益率を拡大できたことは大きな収穫だったと評価しています。その要因としては、原価低減への努力と、オリジナル商品が主体を占めることからくる市場での価格形成力などがあげられます。

さらには、市場自体が縮小し、右肩下がり市場環境の中で、販売費や一般管理費の意識的な圧縮、厳格な与信管理による貸倒損失の極小化などにより、期初において開示いたしました通期見通しより、多少、改善された形で業績をご報告できたことは、満足のいく結果とはいえなくても業績の低迷に一定の歯止めをかけ、来期につながる基盤づくりに貢献できたことと評価しています。

とはいえ、2期連続の損失は間違いのないところであり、早期に黒字転換を図ることを重要な経営課題として認識いたしております。そのためにも、第7次中期経営計画の経営戦略目標に掲げた「厳しい経営環境においても、中長期的に安定した発展が可能な経営体制の構築」を目指し、経営環境の変動に左右されにくい事業基盤の確立、安定成長を可能にする市場優位性の維持と収益力の強化に努める必要性を改めて肝に銘じているところでございます。

## Q 第57期の取り組みについてお聞かせください。

**A** 経営体制の見直しを含む組織の活性化を図り、積極的な商品開発と事業展開に取り組んでまいります。

当社が位置する住宅関連業界は、緩やかな回復基調に向かいつつあるとされるものの、早期に劇的な回復を期待することは極めてむずかしい状況にあります。当社は、こうした状況の中にあっても、住環境の改善に向けた潜在的なニーズには根強いものがあると捉えています。このため、より一層、組織の活性化を図りつつ、柔軟かつ機動的に経営体制の見直しを進め、積極的な商品開発と事業展開を目指してまいります。

商品戦略としては、第56期で着手した商品構成の見直しと再構築をさらに推し進め、お客様にわかりやすく商品を提供できるよう、商品構成の可視化を進めてまいります。また、新たな戦略的商品の軸として福祉施設や高齢者の介護施設、子供向け公共施設に向けた内装金物を総合的に開発してまいります。この点につきましては、すでに第56期でスタートを切っており、その延長線上で逐次、商品として具体化してまいります。

市場戦略としては、上海阿童木建材商貿有限公司において、

日本国内への商品供給源としての体制をさらに強化するとともに、現地販売の強化に力を入れてまいります。また、営業部門の再編という観点から、経験豊かな人員を配した販売促進グループを新たに立ち上げ、設計事務所様や大手デベロッパー様といった重点顧客へアプローチをかけ、全体的な底上げを図ってまいります。

情報システム戦略では、アトムCSタワーが新たな局面を迎えたとの認識に立って、これに応える新たな顔づくりを進めております。加えて、第56期に立ち上げたSNSの「インテリアファン」との連携をさらに強化し、アトムCSタワーのリアルと「インテリアファン」のサイバーを融合させ、当社の業態や商品をわかりやすく伝えていくことを目指してまいります。その上で、モノづくりの物語をきちんとお客様に伝え、これまでとは異なる切り口で価値あるものを紹介し、販売していきたいと考えています。

## Q 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

**A** 新規事業と既存事業の相乗効果をさらに高め、早期の黒字転換を目指してまいります。

これまでお話ししてきましたように、早期に黒字転換を図ることで当社の財務体質を毀損することなく、時代と社会の変化に即応できる経営体制の構築に努めることが、現在の当社に課せられた経営課題であると考えています。こうした観点から、新規事業と既存事業との相乗効果をさらに高め、「伝統と変革の調和的融合」を目指してまいります。

また、当社は株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題として捉え、積極的な配当を行うことを株主の皆様へお約束してまいりました。こうした基本方針に基づき、期末の配当金については1株につき10円とさせていただき、中間配当金の10円と合わせ、年間の配当金は20円となります。来期以降につきましても、この配当を維持していきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも、当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 「2010 春の新作発表会」を東京と大阪で開催し、お客様の期待に応えるべく新製品を多数出展いたしました。

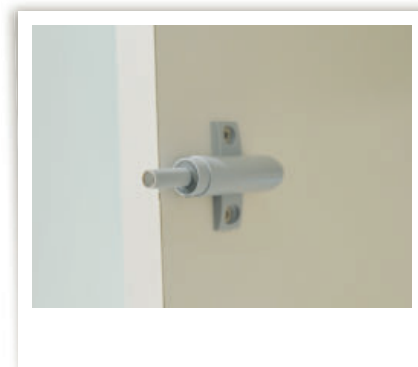
当社は、市場環境や市場ニーズの変化に即応しつつ、ターゲットを明確にした的確かつきめ細かな情報発信を目指し、「秋の内覧会」から「春の新作発表会」という連続性に配慮したセールスプロモーションを展開いたしております。

当期においては、2010年4月7日から9日までの3日間、大阪府吹田市の「アトム住まいの金物ギャラリー」で、また同年4月14日から16日までの3日間、東京都港区の「アトムCSタワー」において、「2010 春の新作発表会」を開催いたしました。今回は、社会的な流れでもあるソフトクローズ機構を盛り込んだ製品を多数出展しました。中でも当社の主力商品である引戸金物において、ソフトクローズ機構のラインナップが充実し、お客様から高い評価を頂戴いたしました。

今後も当社では、「秋の内覧会」から「春の新作発表会」へとという商品開発のサイクルを確固たるものとし、魅力に溢れた新商品の開発と提案に全社一丸となって取り組んでまいります。



### 「2010 春の新作発表会」主な新製品



## 「住まいの安全、安心、快適提案」をテーマに、「第3回産学協同作品展」を開催いたしました。

新分野・異分野の開拓を目指す当社は、2008年から東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程との産学協同作品展を開催してまいりました。当期は、2010年4月14日から16日までの3日間、アトムCSタワーで「住まいの安全、安心、快適提案」をテーマに、「第3回産学協同作品展」を開催いたしました。作品展では8名の学生が暮らしの中のさまざまな問題をそれぞれの視点から考察し、「あったらいいな」を若い感性で表現したユニークな作品を出展しました。また、昨年、出展された作品の中から当社と東海大学との共同で特許出願しているものもあり、製品化に向けた取り組みも着実に進捗しつつあります。

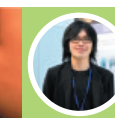
当社では、こうした学生たちの斬新なアイデアや豊かな感性とふれあうことで、当社の企業理念である「より良い金物を自らが考え、自ら普及させていく」ことを再確認するとともに、より良いモノづくりを一層、進化させてまいります。



### 作品のご紹介

#### SLOCK

快適な解錠のために



坂口玄記

#### ONE POINT

愛犬用コンセントカバー



有田朋代

#### two face

魅せる収納と片付ける楽しさ



碓屋絢子

#### joint hook

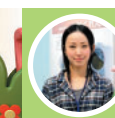
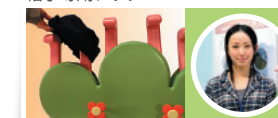
答えの無いフック



西園悠加

#### かくれんぼ

帽子専用フック



佐々木彩乃

#### PRISMATIC SHELF

快適、明快な壁掛本棚の提案



田中亮祐

#### color

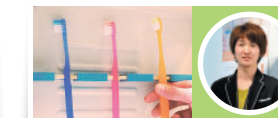
色で見せるコードリール



長瀬文乃

#### SAND

押すと引くの簡単な収納

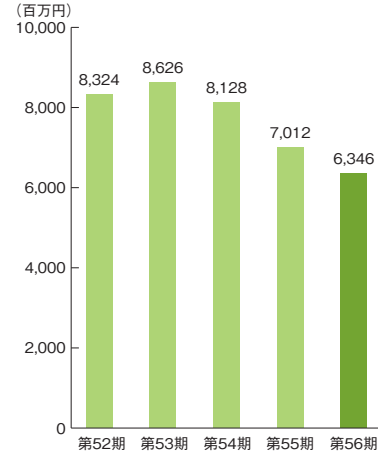


大城将弘

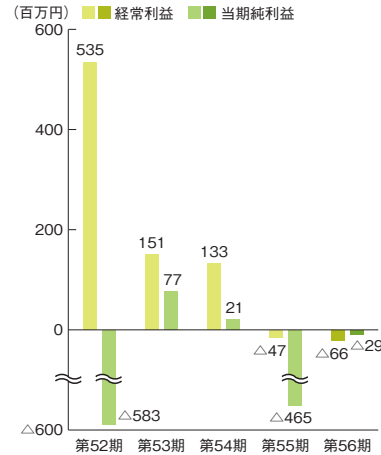


## 業績の推移

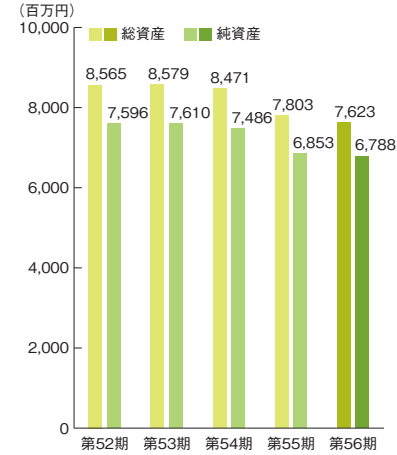
### ● 売上高



### ● 経常利益／当期純利益



### ● 総資産／純資産



### ● 主要経営指標

	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
売上高営業利益率 (%)	3.4	1.1	0.3	△1.6	△2.0
総資本営業利益率 [ROA] (%)	3.1	1.1	0.2	△1.3	△1.6
自己資本利益率 [ROE] (%)	△7.3	1.0	0.3	△6.5	△0.4
流動比率 (%)	805.7	712.4	736.4	714.8	938.2
固定比率 (%)	43.2	52.9	49.8	51.7	48.3
自己資本比率 (%)	88.7	88.7	88.4	87.8	89.1
1株当たり純資産額 (円)	1,850.6	1,854.0	1,823.7	1,717.6	1,701.5
1株当たり当期純利益又は純損失(△) (円)	△142.1	18.9	5.3	△115.5	△7.4
1株当たり配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
配当性向 (%)	—	106.0	374.5	—	—

※第52期・第55期・第56期の配当性向について  
当期純損失であるため算定しておりません。



## 財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前期 (自平成20年7月1日 至平成21年6月30日)	当期 (自平成21年7月1日 至平成22年6月30日)
売上高		7,012,103	6,346,396
売上原価		5,199,836	4,621,439
売上総利益		1,812,266	1,724,956
販売費及び一般管理費		1,921,489	1,851,128
営業損失 (△)		△ 109,222	△ 126,171
営業外収益		62,092	59,318
営業外費用		226	38
経常損失 (△)		△ 47,356	△ 66,891
特別利益		—	34,014
特別損失		270,818	8,611
税引前当期純損失 (△)		△ 318,174	△ 41,488
法人税、住民税及び事業税		1,067	1,365
法人税等調整額		146,449	△ 13,421
当期純損失 (△)		△ 465,691	△ 29,432





貸借対照表

科目	期別 前期 (平成21年 6月30日現在)	当期 (平成22年 6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	1,772,130	1,870,572
受取手形及び売掛金	1,682,222	1,565,567
有価証券	296,778	387,810
商品	441,370	447,847
貯蔵品	—	12,936
その他	72,496	62,414
貸倒引当金	△ 5,902	△ 3,453
流動資産合計	4,259,095	4,343,693
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	1,213,676	1,167,042
工具、器具及び備品 (純額)	181,353	110,183
土地	1,027,767	1,027,767
その他 (純額)	1,488	1,317
有形固定資産合計	2,424,285	2,306,310
無形固定資産		
	50,298	35,406
投資その他の資産		
投資有価証券	977,970	820,118
その他	100,772	119,204
貸倒引当金	△ 8,989	△ 1,632
投資その他の資産合計	1,069,754	937,690
固定資産合計	3,544,338	3,279,406
資産合計	7,803,433	7,623,099

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別 前期 (平成21年 6月30日現在)	当期 (平成22年 6月30日現在)
(負債の部)		
流動負債		
買掛金	341,702	350,638
未払法人税等	1,234	4,961
製品補償引当金	111,383	—
その他	141,518	107,371
流動負債合計	595,839	462,972
固定負債		
退職給付引当金	183,599	185,063
役員退職慰労引当金	170,095	179,345
その他	751	6,893
固定負債合計	354,447	371,303
負債合計	950,286	834,275
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	6,387,411	6,278,179
自己株式	△ 64,425	△ 64,475
株主資本合計	6,896,975	6,787,693
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△ 43,828	1,130
評価・換算差額等合計	△ 43,828	1,130
純資産合計	6,853,147	6,788,824
負債純資産合計	7,803,433	7,623,099

株主資本等  
変動計算書

(自平成21年7月1日  
至平成22年6月30日)

(単位：千円未満切捨て)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
				土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
平成21年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	262,305	6,387,411	△ 64,425	6,896,975
事業年度中の変動額										
剰余金の配当							△ 79,799	△ 79,799		△ 79,799
当期純損失 (△)							△ 29,432	△ 29,432		△ 29,432
自己株式の取得									△ 50	△ 50
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)										
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	△ 109,231	△ 109,231	△ 50	△ 109,281
平成22年6月30日 残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	153,074	6,278,179	△ 64,475	6,787,693

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成21年6月30日 残高	△ 43,828	△ 43,828	6,853,147
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			△ 79,799
当期純損失 (△)			△ 29,432
自己株式の取得			△ 50
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	44,959	44,959	44,959
事業年度中の変動額合計	44,959	44,959	△ 64,322
平成22年6月30日 残高	1,130	1,130	6,788,824



## 財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科目	期別	前期 (自平成20年7月1日 至平成21年6月30日)	当期 (自平成21年7月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		508,990	184,146
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 459,237	△ 5,813
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 145,576	△ 79,891
現金及び現金同等物の増加(△減少)額		△ 95,824	98,441
現金及び現金同等物の期首残高		1,867,954	1,772,130
現金及び現金同等物の期末残高		1,772,130	1,870,572

### キャッシュ・フロー計算書

#### Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、資金流出ではない減価償却費217百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、税引前当期純損失41百万円等によるものです。

#### Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

商品開発等の金型取得、及び設備の老朽化による更新で有形固定資産の取得による支出122百万円等によるものです。

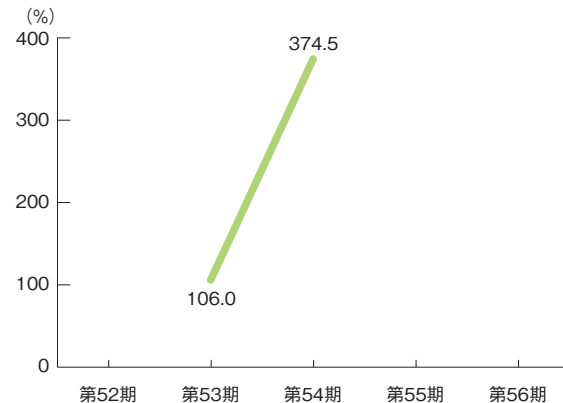
#### Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額79百万円等によるものです。



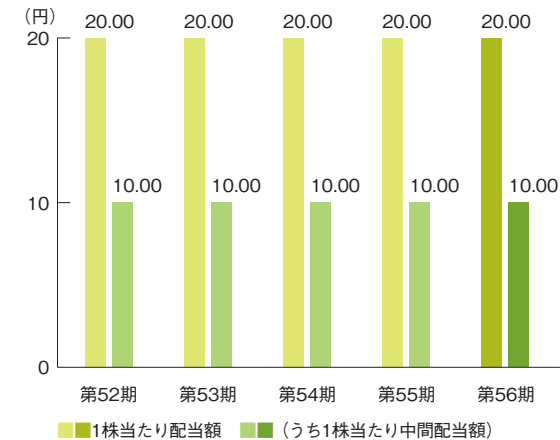
## 配当状況

### ● 配当性向



(注) 第52期・第55期・第56期について当期純損失であるため、配当性向は算定していません。

### ● 1株当たり配当額

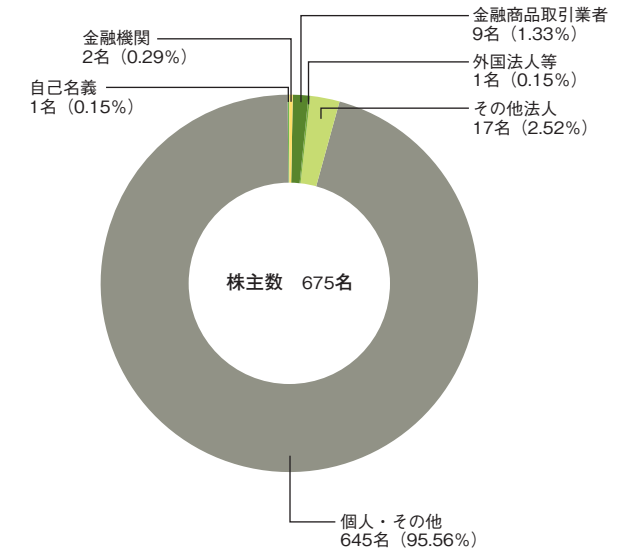


## 株式の状況 (平成22年6月30日現在)

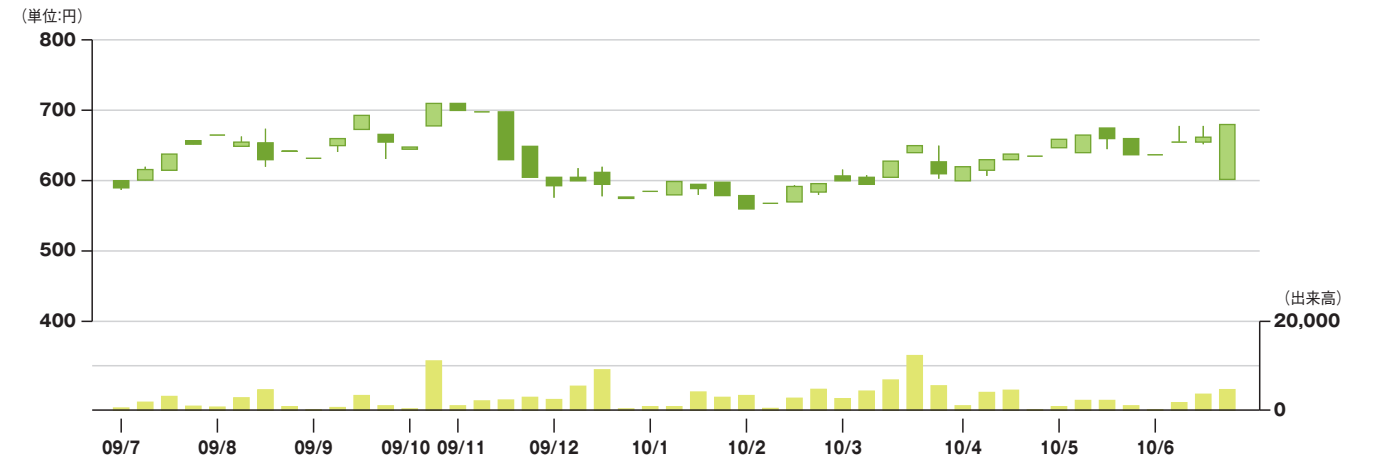
発行可能株式総数 15,420,000株  
 発行済株式の総数 4,105,000株  
 株主数 675名  
 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	985,440	24.00
高橋良一	615,000	14.98
アトムリビントック従業員持株会	340,960	8.30
アトムリビントック取引先持株会	235,400	5.73
高橋快一郎	180,000	4.38
高橋寿子	152,000	3.70
大塚李代	137,000	3.33
アトムリビントック株式会社	115,117	2.80
佐藤俊夫	90,100	2.19
磯川産業株式会社	81,500	1.98

### ● 株主の所有者別分布状況 (平成22年6月30日現在)



## 株価および出来高の推移





## 会社概要 (平成22年6月30日現在)

商号 アトムリビンテック株式会社  
 創業 明治36年  
 設立 昭和29年10月  
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、  
 住まいの金物全般の企画・開発・販売  
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行  
 株式会社三菱東京UFJ銀行  
 従業員数 114名 (嘱託7名・パート16名含まず)



## 役員 (平成22年9月28日現在)

代表取締役社長 高橋 良一  
 取締役 後藤 厚  
 取締役 神原 誠  
 取締役 根本 博  
 常勤監査役 馬場 敏雄  
 監査役 岸田 充雄  
 監査役 輿水 洋一

■ ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、  
 様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。



## 事業所一覧 (平成22年6月30日現在)

本社 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600  
 アトムC/Dセンター (商品本部) 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町1336-4 TEL 048-922-5551  
 札幌営業所 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号  
 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113  
 前橋営業所 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651  
 広島営業所 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235  
 アトムCSタワー 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号  
 オンデマンド事業部 TEL 03-3437-3673  
 ショップ&ショールーム 亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440  
 アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281



## 関連会社 (平成22年6月30日現在)

上海阿童木建材商貿有限公司 (中華人民共和国)



シリーズ  
企画

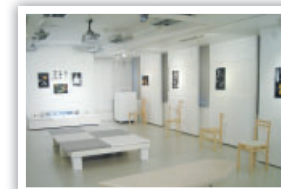
## アトムCSタワー最前線 FLOOR GUIDE

# GALLERY

## 異分野・異業種との接点として異彩を放つオープンスペース

当社ではさらなる事業の進化を目指し、「住空間創造企業」として新たなライフスタイルの提案に取り組んでいます。その拠点となるのが、アトムCSタワーです。第3回目は、異分野・異業種の皆様との交流、コラボレーション、ネットワーク化を推進し、多様なコミュニケーションを実現する8階に設置された「オープン・ギャラリー」をご紹介します。

アトムCSタワーもオープンしてすでに4年が経過し、ここを足場としたネットワークも充実の一途をたどっています。オープン・ギャラリーでは、既成概念にとらわれることなく、本物志向のお客様とライフスタイルで共感でき、価値観を共有できるよう、さまざまな切り口で住空間の創造にアプローチしてきました。最近では、ゆらぎと住空間にフォーカスした「1/f ゆらぎパネルディスカッション」や、固定概念を覆す「煎茶道 黄檗売茶流」のお茶会、世界的演奏者・姜小青さんによる古箏のミニコンサート、NHKの取材も入った漆アートPC個展、「陰陽五行説」をコンセプトにした食器の新作展示会、カメラマンとコピーライターによる伝統工芸職人写真展など、クリエイティブな機会の創出に努めてきました。今後も当社では、こうした機会を通じて、理想のライフスタイルを実現するお手伝いをしていきたいと考えています。





## 株主メモ

---

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

---

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600 (大代表)  
ホームページ <http://www.atomlt.com/>

